

レピータ局 JP2YCE を臨時移設 (東海地方本部)

【紀伊半島水害被災地で活動するボランティア間の連絡等に供するため】



▲JP2YCEレピータを紀宝町役場に移設

台風12号の影響による、熊野川支流の相野谷川の氾濫等で、大きな被害(水害、土砂崩れ等)が発生している三重県南牟婁郡紀宝町は、9月7日、紀宝町災害ボランティアセンターを設置し、災害の救援のため災害ボランティア(泥だし、片付けなど)の募集をおこなっています。

三重県・和歌山県・奈良県の熊野川水系の周辺地域ほかで、洪水による大きな被害が出ているようです。

JARL東海地方本部では、今回の紀伊半島水害に際して、紀伊半島水害被災地で活動する(被災地に向かう)ボランティア(アマチュア無線家)間の連絡等に供するため、9月10日、三重県鈴鹿市白子町官有地鈴鹿高専に開設していた、レピータ局JP2YCE(439.70MHz)を、被災地の三重県南牟婁郡紀宝町に臨時に移設して、運用を開始しました。今回のJP2YCEレピータの移設は、東海総合通信局から被災地の状況の照会を受けた、富岡 巧三重県支部長(JR2MHV)が現地の状況を確認して計画したもので、東海総合通信局の非常時における臨機な対応で免許されたものです。

レピータの移設のため現地に向かった、富岡支部長



▲移設した場所から見た紀宝町の風景



▲屋上に設置したアンテナ(左側の短いもの)

のレポートをいただきましたので、皆様にご紹介いたします。

☆ ☆

現地で場所を探しましたが、結局紀宝町役場の屋上にアンテナを仮設して本体は屋上電源室に入れることができました。当日は、熊野無線クラブのJA2GJE山崎さん・JE2APW朝尾運営委員・JF2CTT甫本運営委員などにお世話になり正午には電波を出すことができ、午後には、伝搬調査をおこないました。

JP2YCEレピータの動作範囲は、ハンディー機では約5km、モバイル機では約15kmと実測しました。現地の地形は起伏の激しい場所です。

開設当日の現地の状況は、

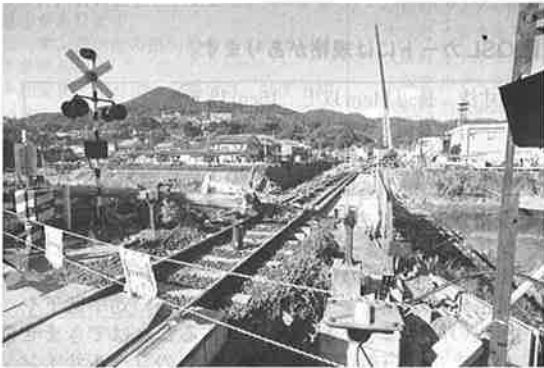
- 熊野市から南地区では部分的に床上浸水している家屋が多かった。特に、川沿いは軒並み。
- 紀宝町役場がかなりしっかりした建物で、町長の理解も得られて設置もスムーズに運べた。
- 紀宝町は全家屋断水中で、飲食店などの店舗は全て営業をしていないので、少し手前の御浜町まで飲料水を取りに行かなければならない状況だった。



▲全世帯断水で自衛隊が飲料水を供給



▲災害ボランティアセンター



▲JR紀勢本線は災害により運転見合わせ

- 車の使用ができない住民は、紀宝町役場駐車場で自衛隊による給水サービスを受けられるので自転車で取りにきていた。
- レピータを設置した近くに3つの災害ボランティアセンターが立ち上がっており、活動を率いているアマチュア局に対してレピータの使用を促した。
- レピータから直線で1km以内が新宮市であり、新宮市災害ボランティアセンター内にあるSHINGU HFアマチュア無線クラブがボランティアからの連絡を各地のボラセンに情報として流しているのレピータが非常に助かると感謝の意を伝えられた。

☆ ☆

また今回の、JP2YCEレピータの臨時移設に際して、



▲和歌山県新宮市でボランティア奉仕をするSHINGU HF AMC (左の写真は運用する代表者の神田さん)

全体を通じて感じたことを列挙すると次のとおりです。

- 既設のレピータ (JR2WH, JP2YDV) が隣の熊野市にあるがハンディーでは使用が困難
- 紀宝町の近くに3つのボランティアセンターが設置され、紀宝町では290名 (10日午前中) が各現場に向かって行きました。彼らの中には、ハンディーを持っている方もいました。
- 御浜町 (三重県南牟婁郡) はあまり報道されていないが、新宮市と共にかかなりの被害を受けているようです。
- 天理教ひのきしん災救隊が直接の被害宅で活動しており、その連絡にもレピータが使用されています。
- 新宮市ボランティアセンターからレピータのアンテナまで1km以内なので、ハンディーで十分届き、センター間の連絡がスムーズになったようです。

なおJP2YCEレピータの移設期間については、被災地の状況がある程度落ち着く時期を見はからって元の開設場所に戻す予定です。

